



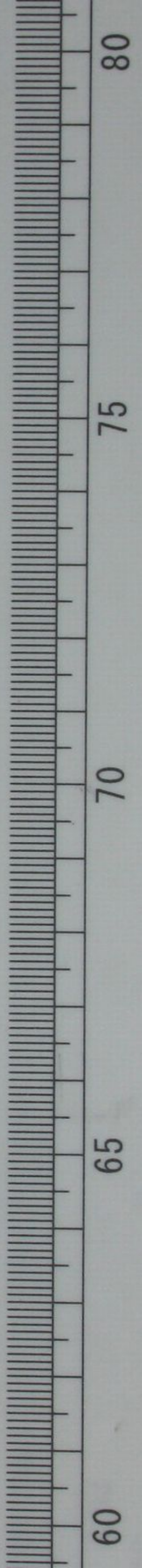
鎌合管領
方領役考

應仁武鑑

三篇

三

伊地知文庫
文庫20
368
6



文庫20
368
76

附載

行岳乃北畠以下十家鎌倉の分國了住とと

云と其職貢を納しや不詳ふせ以系圖に

又他了校しよる好く依る爰に記し

北畠左衛門督俊具二丁 葛西刑部大輔親宗三丁

和賀中務大輔義翁二丁 石川中務大輔成光七丁

二階堂遠江守盛重九丁 村上左京大夫持清十丁

酒井越中守定隆十一丁 小野寺備前守政道十二丁

本間内藏助泰直十三丁 蠣崎宮内少輔光廣十四丁



工花咲屋新之助

二書二式監成書二

行岳 村上源氏

村上天皇第七皇子
二品中務卿具平親王十一代孫

師重 北畠權大納言正二位

親房 北畠准后
職原鈔著述

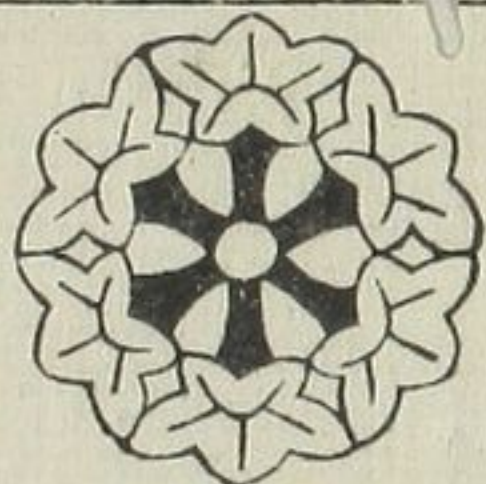
顯家 鎮守府大將軍陸奥
国司 贈從一位

顯信 春日左中將

顯能 伊勢国司准后

顯雄

顯成 行岳御所祖
從二位推大納言



北畠左衛門督俊具

陸奥 東日流六郡奥法 馬郡 江

流末 田舎 平賀 鼻和田一万

子二百町余乃獲稻又百六十万束

餘以直錢三十三万六千貫文以米
今量二十七万六千三百三十八石

二二五五

十一

親成

行岳御所

女

南部三郎室

定永

行岳左衛門佐

定顯

行岳右京亮

女

三戸太郎妻

定親

行岳左衛門尉

親清

行岳彈正左衛門尉

忠具

行岳御所權大納言
右兵衛督

親具

行岳左近衛中將

親持

行岳右京亮

女

多田安房太郎妻

俊具

行岳御所左衛門督
左中將

具運

行岳御所式部卿

具興

行岳式部大輔

具成

行岳彈正少弼

具孝

行岳右京少進

具永

行岳御所大納言

顯忠

行岳左衛門佐

木斗
餘

米六万七千八百八十三石九斗

京役 北畠家收納 六万七千
八百八十

三石九斗を折し之を三万三千
九百四十一石九斗又升を北
畠家の得合と以て三斗八石
四子八百又十石俵余なり

米廿万三千六百六十一石七斗

鎌倉收 二百八十人地侍の
給分

京館 万里小路

尾城 陸奥津輕郡行岳 浪岡と由書
たぐり俗字

鎌倉より 二百又里余

大佛端

浪岡より 二里

同 回舍館

浪岡より 二里半

家老 多田伊賀守行義

水溪右京亮綱親

三宅右大左衛門高重

品川右衛門太郎宗祐

行岳乃御所鎮守府將軍顯家卿

女 行西御所室

顯則 行岳左近大夫

真家 行岳御所
天正六十七廿自殺

具愛 行岳太郎

起ると云共浪岡某記云よ此の領
守府將軍秀衡の末子以外濱入逃
行岡に任一行岡大夫と云其
曾孫行岡右兵衛大夫と云若乃女
顯家卿に仕く顯成を生まらふ

顯家卿安倍野に戦死あり一後顯成外祖父の家に入住し終
り行岳を領し七代相續あり一か天文乃始南部家入所領
を掠らるる天文六年津輕家のため滅せらるる二百年の社
稷一熄ひしと云

葛西 桓武平氏

桓武天皇皇子葛原親王孫
高望王男

良文 村岡五郎

忠頼 村岡二郎

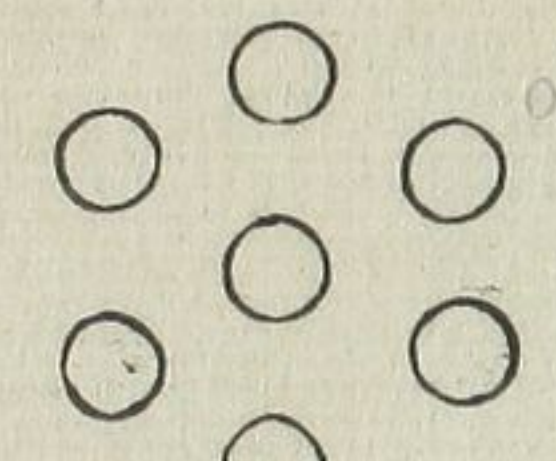
将常 武藏守從五位下

武基 秩父別當

武綱 秩父十郎

武常 秩父六郎大夫

常家 秩父六郎



葛西刑部大輔親宗

陸奥 膽澤 磐井 壯康之郡田三

千六百七十九所 文治の年領と系圖
乃獲綿百八十三万九千束
以直錢十一万三百七十貫文
未今量八万九千七百七十石

康家 豊島太郎 権守

清光 豊島三郎 権守

朝經 豊島右馬允

清重 葛西三郎 右衛門尉 壹岐守

文治五八廿四賜伊澤石井 壯麻三郡地頭 居石卷城

清親 葛西左衛門尉

朝清 葛西伊豫守

清時 葛西新左衛門尉

時重 葛西八郎左衛門尉

清秀 葛西河内守

常則 葛西六郎

清負 葛西壹岐守

定廣 葛西十郎

清高 葛西三郎 右衛門尉

親信 葛西治部大輔

直信 豊島太郎

親家 葛西左近將監

親長 寺崎玄部大輔

又升 余

米口子口百又十八石又斗一升

七合余 斗八一万子百 陸奥 斗十六俵一斗余

守護職新

米口万二子三百又十一石九斗

余 斗八十万又子八百 葛西 斗十九俵三斗二升余

家領

鎌倉館 葛西谷

居城 陸奥 壯麻郡 不卷 門 服村 好日 山頭 あり

今好日山海門寺の地と云 鎌倉より 百十三里

少城 陸奥 本 赤 郡 本 赤 不 卷 一 里

同 折立 不 卷 一 里

同 戸 不 卷 一 里

同 登 米 郡 上 治 不 卷 一 里 二 里 余

家名 葛西 六 郎 清 元

千葉 大 膳 亮

千葉 豊 後 守 親 胤

文治六年八月廿二日伊澤石井壯

晴親 葛西刑部大輔

持信 葛西伯耆推守

信敏 葛西四郎

政親 葛西左近將監
母南部義政女

親宗 葛西刑部大輔
實持信二男

親信 葛西治部大輔

晴信 葛西刑部大輔

信茂 大原飛驒守

晴時 葛西總十郎

和賀 清和源氏

和賀系圖有數本今姑從一本猶他日可校正

賴朝 征夷大將軍右大將

忠賴 千鶴丸 式部大輔
母伊東祐親女

忠實 和賀御所
寬喜三三卒

忠朝 式部大夫
住羽州仙北本堂

忠兼 和賀御所
建長三卒

女 和賀御所 子孫別系

宗忠 和賀三郎
文永三卒

庶之郡を葛西之郎清重不賜と
去は東鑑不見と云々半泉那内檢
非違使所乃事を命せらるるはあ
たハ合せしに郡を支配せし
同の天正十八年より二百二年相
續せし名家一朝に滅せらるる
る時世の變と云と云歎惜ふた
以

文安元年九月 家督



和賀中務大輔義翁

妻 八戸左近大夫女

陸奥 和賀 菊多二郡田八百九十

町獲稻田十口又子東 以直錢
子七百貫文なり以米今量二万
子六百七十七石三斗八升二合
又白米 あり

宗義 和賀多田太郎 永仁年卒

義維 和賀多田三郎 元亨三年卒

義達 和賀多田三郎太郎 貞和年卒

義周 和賀多田大和守 嘉慶三年卒

義弼 和賀永井八十九卒 應永永井八十九卒

義秀 須々孫上野介 称西和賀

義躬 須々孫上野介

義村 須々孫上野介

義實 須々孫七郎 天正八十六討死十六歳

義篤 和賀多田大和守 文安元九十年卒

熙忠 梶貫太郎大和守

廣忠 梶貫備中守

義翁 和賀多田中務大輔 文明九年卒

女 淺利與一祐一妻

女 本堂義通妻久通母

義弥 和賀四郎 文龜元年卒

義一 和賀太郎

義忠 和賀多田薩摩守 天正十九討死

米千七十八石八斗六升九合 二斗の

六百九十 七張余 陸奥守護職料

米一万二百四十九石二斗六升六

合餘 二万八千六百廿三張

所二万八千六百廿三張 和賀家

と云ると合せ考へり 和賀家

鎌倉館比企谷

居城 陸奥和賀郡三子 鎌倉より 百五十里

家老 須々孫上野介義躬

筒井三郎八郎

小原左馬助

本堂家譜云右大将頼朝卿伊豆の

伊東祐親乃許ふまはぬ一けふ時

祐親ら女乃腹子誕生あり一十鶴

丸を乳母抱きて奥列子逃せぬ

獵田平右衛門と云者をめくらひ

南部の和賀に住むひら後ふ

武部大輔忠頼と称しそけり國人

義貫 和賀又二郎

義武 和賀又四郎主馬助
慶長六八作乱誅

義趣 和賀太郎

忠朝ハ和賀國仙北乃本堂ハ復さんと云里又和賀多田家記
ハハ忠実乃長子忠兼女子乃ハあり男子ハ多田氏乃
子ヲ婿トシテ家を継グモ宗忠ト云去共國人ハ女子ヲ和
賀御所ト称シ其ノ産ル男子宗遠ヲ御所ト崇メ宗忠ハ
和賀ノ多田三郎ト称セシキル宗遠ノ子孫數代ノ後和賀
乃本堂ト合ク一家トホ見ぬ

石川 清和源氏

清和天皇曾孫多田滿仲二男
大和源氏祖

頼親 右馬頭

頼遠 石川二郎
住河内石川

有光 石川冠者
陸奥下向

基光 石川三郎

光義 石川澤田太郎

義季 石川三郎

光治 石川成田太郎
石河氏祖



石川中務大輔成光

陸奥 石川郡一圓 田村 磐瀬

磐前等旧郡本領ノ子ハ百餘町之
事ト康正二年乃文書ハ之也以獲
稻百七十万束あるハ一以直錢十
文以米八万石石河氏量八万石
石河氏十石石河斗五升ハある

應仁正徳至嘉永

廣季 石川小二郎

光貞 石川小太郎

光長 石川太郎四郎

光盛 石川太郎四郎

盛義 石川小太郎

家光 石川駿河守

時光 石川六郎 官内少輔
元弘三七從尊氏上洛

貞光 石川美作守

義光 石川七郎
建武三七討死

詮持 石川中務少輔

義清 石川三郎

滿朝 石川大和守

持家 石川朝川三郎

女 岩瀬三階堂室

義光 石川孫太郎 駿河守

持光 石川孫三郎 中務少輔
駿河守

宗光 石川治部少輔

成光 石川中務大輔
駿河守

米三万九千百八十石 石田斗六

升余 斗八千九百七十五 石川家
八百八十六俵余

領

米に子百廿一石又斗二升余陸

奥守護職料

鎌倉館 山内 四月院乃後不石川を
友と云畠乃家あり是

不川中務大輔
の館あるへ

辰城 陸奥不川郡不川 鎌倉より
六十七里

支城 同 朝川 不川より
二里

同 赤館 不川より
七里

家老 赤館官内大輔光成

赤坂右馬助光遠

不川二郎三郎宗親

不川三郎基光 右大将頼朝姫の奥

召征伐不從功ありしかば不川

郡の地頭職に補せらる子孫お續

とく爰不從官内少輔時光三利

尊氏姫より從建武中興の勲功あり

建武二

付八

高光 石川治部大輔

菑光 石川駿河守

晴光 石川修理大夫伊勢守
從四位下

政光

女 昭光室

昭光 石川大和守

義宗 石川遠江守

宗弘 石川大和

二階堂 藤原氏

大織冠鎌足孫武智磨昌男
從三位乙麻呂七代

為憲 木二助 号二藤大夫
遠江守

時理 二藤大夫 從五位下

時信 駿河守

維永 二藤大夫 伊東河津祖

維遠 遠江守

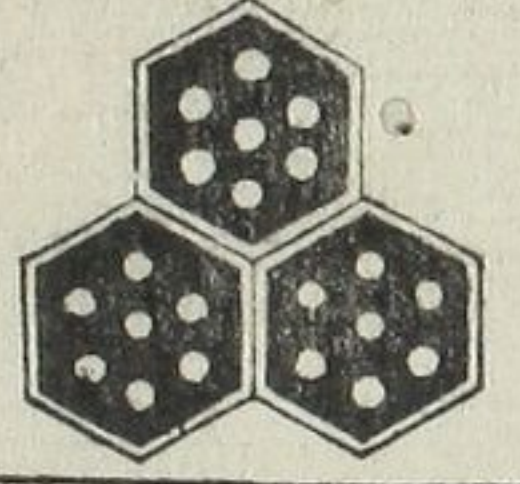
維光 遠江守
一兼

維行 遠江守 從五位下
波梨入道

二階堂藤原氏

本領新恩共入安堵を賜り奥列
一方乃探題たるハ舟尾赤坂等の
諸士共々興力とありしハ強るハ
伊勢守晴光伊達晴宗の男昭光を
塔とく家督を譲る基光の血脈
廿一代ふく新昭光天正八年志
田部松山へ移り慶長二年伊具郡
へ移り率一義宗角田へ移ると
云

長祿三年十月 家督



二階堂遠江守盛重

陸奥 磐瀨 白河 二郡の田千八百

又十餘町乃獲稻七十七万石

餘以直錢四万石又百貫文以米

三万石又七百石十餘今量三

万七石又百七十八石

又斗八升七合又勺

米千八百七十八石九斗二升九合

付乙

行遠 從五位下 白尾三郎

行政 從五位下 山城守 号二階堂

行光 二階堂信濃守

行村 伊勢二階堂祖

行盛 二階堂紀伊守

行泰 二階堂加賀守

行綱 二階堂伊豫守 岩瀬祖

行忠 二階堂信濃守

行經 二階堂三郎左衛門尉

三勺七撮又陸奥守護職折

米一万七千八百二十九石八斗二

升九合六撮二又 石斗入石万石 又六百二十石

俵二 二階堂家領 斗余

鎌倉館 二階堂

居城 陸奥般瀬郡須賀川 鎌倉より 六十石里半

家老 矢回野右馬允常春

須田美濃守盛次

遠及雅介綱元

賴綱 二階堂左衛門尉

盛綱 二階堂伊勢守

行景 二階堂和泉守

行負 二階堂七郎左衛門尉

行雄 二階堂伊勢守

宗綱 二階堂三郎左衛門尉

光綱 二階堂五郎左衛門尉

行續 二階堂治部少輔 長祿三十討死

義綱 二階堂駿河守

貞綱 二階堂三郎左衛門尉

女 依行行義室貞義母

景綱 二階堂備中守

時綱 二階堂三河守 小瀧祖

行高 二階堂四郎左衛門尉

貞雄 二階堂因幡守

女 三河守時綱妻

盛重 二階堂藤壽九郎 遠江守

盛秀 矢田野三郎

行朝 二階堂信濃守

行親 二階堂左衛門尉

行通 二階堂美濃守

行良 二階堂左衛門尉

行光 二階堂二郎

行永 二階堂遠江守

行宗 二階堂治部少輔

輝行 二階堂二郎

盛義 二階堂遠江守

須賀川乃二階堂治部少輔行續長祿三年十月上列佐貫
衣羽後原の合戦ふ京方と馳加を更く討死せしか入聖
る四年ふ至聖將軍義政より御内書ふ貞真の六刃を
添く行續の長男及若丸ふ賜を更けおより内書案ふ
見えくより及若丸のち子遠江と称し盛重と云盛重の
孫遠江も盛義ハ伊を晴宗の婿おせハ佐竹蘆名岩城田
村とも親しく國中無事お里ふ盛義卒して後伊を家
乃兵須賀川を築くくおきを取實ふ天正十七年十月
廿六日歿り

村上 清和源氏

清和天皇七代筑後守仲宗二男
村上顯清二男
村上判官代

為國 村上判官代

安信 村上二郎判官代

信泰 村上孫四郎
信列村上祖

信村 村上修理亮

胤信 村上修理亮

信泰 村上孫四郎

義日 村上彦四郎
於吉野山戦死

上

村上左京大夫持清

上総 望陀郡之内千二百八十餘町
本領相違不可有之状仍此件康正
二年正月十二日乃文書あり千二
百八十餘町乃獲稻六十二万八千
餘石直錢三万七千八百貫文付
米三万二千八百石不今量云

信貞

村上河内守

師國

村上中務權大輔

滿信

村上中務大輔

直清

村上中務大輔

持清

村上左京大夫

成清

村上信濃守

信澄

村上左衛門

信清

村上左衛門

酒井

清和源氏

清和天皇十二代新田政義二男
大館二郎家氏長子

宗氏

大館二郎

氏明

大館左馬助

義冬

大館治部少輔

氏信

大館中務少輔

政房

大館民部少輔

忠則

酒井餘四郎

貞忠

酒井七郎 應永世

三廿四於浪合自害

萬石百石三斗
一升二合六勺

米千石百十八石二斗六升八合余

上總守護職新

米一萬石子三百九十八石余

萬石子九百 村上家領
八十七石余

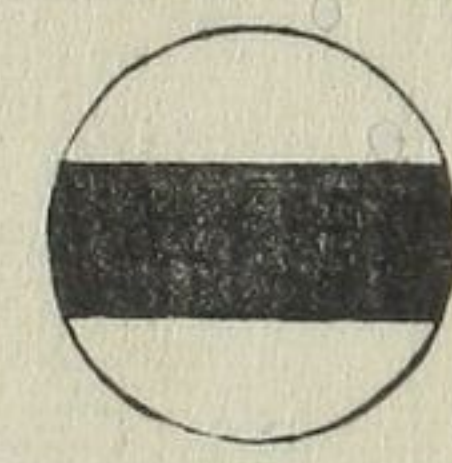
鎌倉館

居城上總忍陀郡家里

家光 朝倉二郎左衛門

永享七乙卯
康正二
大永元

關東下向廿三
隱居清傳八十七



酒井越中守定隆

上總武射 山邊 長柄三郡田二

千三百八十餘町乃獲稻而十七萬

石子東餘以直錢七万又百貫文以

今量以万六千九百七十

石九斗八升七合又白
米二千八百四十八石餘上總守護

貞信

酒井六郎
住遠刈井谷

定隆

酒井小太郎越中守
康正二關東下向長
亨二築土氣城 後移於
東金 清傳入道

隆治

酒井左衛門佐

玄治

酒井左衛門二郎

胤治

酒井中務丞

康治

酒井左衛門二郎

職料

米二万七千六百二十二石六斗四升餘

四百八十六石七斗
七百八十六石餘 酒井家領

孫倉

孫倉中下向館

尾城

上流山邊郡土氣

同

東金

家老 板倉長門守

小野寺

藤原氏

攝政大臣忠平公四男
小一条左大臣師尹公三男
贈右大臣

濟時

号小一条右大将

為任

正四位下 伊豫守

師通

從三位

通家

從五位下 上野介下野守
母近江守高雅女

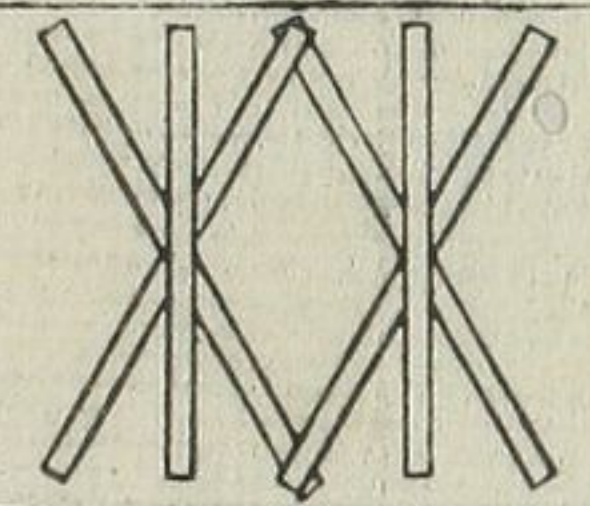
貞信

從五位下
母相模守公光女

天治二十二月賜下野國那須野
郡領職

資通

須藤太郎



小野寺備前守政道

嘉吉二年 家督廿歲
寬正二年

出羽

雄勝 平鹿 山本三郡田七

千石百町乃獲稻三百七十八萬
東以直錢廿二万石千貫文以米
今量十八万石八百三十一石
八斗七升
石合不南

女 八幡斎義家朝臣乳母

通清 鎌田權守住駿河國

通義 須藤刑部丞

俊通 須藤刑部丞

義寛 小野寺禪師
住野州足利莊小野堂
建立寺依為小野寺禪師

通綱 小野寺禪師太郎

通業 小野寺左兵衛佐

泰通 小野寺左兵衛佐
補出羽國稅所職

通景 小野寺筑前守
母三善氏
建治三四廿三家督

女 波岡四郎大夫妻

幸徳丸 元應二七六家督早世

周道 小野寺三郎兵衛尉
正徳元正廿三家督

女 八柏五郎妻

道俊 小野寺肥前守

満道 小野寺肥前守

持道 小野寺肥前守

米九子九十一石六斗九升余

入二万二千七百 出羽守護職

廿八俵三斗九升 新小野寺家収

米八万六千三百七十一斗四

升餘 四斗八廿一万六千九百

廿八俵一斗四升二合余 小野寺家領

録倉館

京館 姉小路高倉

居城 出羽雄勝郡稻庭 録倉ヨリ 百五十余里

支城 同 小野 稻庭より 二里

同 湯澤 同 六里余

家老 姉崎旧家長門隆貫

三春信濃六郎秀勝

八柏大和守道友

横手三郎兵衛道前

小野寺中宮亮輝道天文廿一年七

月六日横手佐渡より城を奪入て

居城とせんといふを政家と云

勝道 小野寺肥前守

經道 大泉莊司右郎

女 西馬音内孫五郎妻

教道 小野寺備前守

方道 西馬音内前守

重範 羽川小三郎

政道 小野寺備前守

女 柴田平九郎妻

女 新和野三郎妻

尚遠 小野寺筑前守

經親 山田孫左衛門

女 草薙五郎三郎妻

晴勝 小出十三郎

高遠 山田孫左衛門

輝道 小野寺中官亮

女 武田兵庫頭妻

景道 小野寺遠江守

景保 泉小六郎

流矢中討死一嫡子は年九か

らくらく羽黒山に遁走後庄内は

利の援小よ横手を討く父の仇

を復し遠江も景道と云ふの時小

室々小野寺相傳の女書をか以て

散逸以景道勇あり智ありよく

父祖乃業を續く中興の盛業をか

と云共邊鄙の郷出小安一天下

乃洪運轉復の理小暗く戸海某の

妻子を討んとを謀り小戸海乃

はよく是を察知し以て逃る

く江戸小走る能ふ戸海は殊功

を賞せらるる本領を安堵し小野

寺の出入り小よ父子女人衣

羽流ささ坂崎出羽直行小預

らさ小野寺乃家亡ひ小斯る

凶變の夜小其系圖譜牒を以て

鳥有歸以今小野寺與三左衛門

二二二

義道

小野寺孫十郎
遠江守 秀次
慶長六配流于石列津
和野

秀詮

小野寺右京大夫

秀國

小野寺與三左衛門

秀備

小野寺重直衛門

秀憑

小野寺小次郎

永慶軍記不記せし誤あり又家紋根牛と云ハ川除の
杭かろを臥牛ありと云巾侍へあやまるる考へし

秀國乃記さる如ふよし仁比廿

一万石餘を領せしを承知す其

家乃紋三引西ふく織田敏よ

窠の紋を賜ふを合せ用ふ

改撰系圖の又奥羽

永慶軍記不記し其城地乃沿革

を考へし但儀後其の孫ありと

文安四年十月 家督

本間 村上源氏

人皇六十六代

村上天皇第四皇子

為平親正 一品式部卿

顯定

從四位上 彈正 大弼

資

右馬頭

有宗

從四位上 陸奥守

有兼

從五位下 相摸守

季兼

海老名源太 母有兼女
父小野盛兼 為外祖子

季貞

海老名源八

□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□

本間内藏助泰直

文明三年三月六日卒

佐渡

雜太郡長本之介一賀茂郡長

畝半分 和泉保正介一同保内屋

浦田一町 不田郷金丸半介長池

関浦田凡二百八十町 本間家文書及佐渡

段別 以獲稻二十万二千束 以直錢一

季又 海老名太郎

季時 荻野五郎

能忠 本間右馬允

忠家 本間對馬守

基忠 本間山城守

忠綱 本間太郎左衛門尉

久綱 本間新左衛門尉

賴綱 本間八郎左衛門尉

資貞 本間九郎

資忠 本間源内兵衛

宗忠 本間十郎山城守
住雜太

定連 本間十郎左衛門

有綱 本間四郎

賴直 本間主計助

泰宣 本間兵衛大夫

有直 本間縫殿助

万石千五百廿貫文以米分量一万
石七百二十石二斗一升七合
米石石百七十二石七斗又升三

合餘 四斗八一万石之石 本間家領
九百卅石俵余

米又百八十六石七斗一升 旧斗八
千石石

六十六 佐渡守護職料
俵余

鎌倉館 甘繩 或云相列愛甲郡依

知村

居城 佐渡羽茂郡雜太 鎌倉より海陸
百廿二里

家老 小本民部丞頼利

忠直 本間左衛門尉 為忠 本間兵衛尉

忠光 本間左衛門尉 忠茂 本間治部丞

宣基 本間太郎 忠李 本間三郎太郎

泰綱 本間源太 資李 本間右馬助

重久 本間二郎 持李 本間孫四郎

重連 本間六郎左衛門 資氏 本間彦四郎

宣連 本間弥六兵衛 季信 本間兵衛四郎

有連 本間太郎左衛門 國季 本間兵衛五郎

宗連 本間三郎 守李 本間山城守
子孫住志江

直冬 本間左衛門佐

有重 本間兵衛郎

重直 本間三郎五郎

蘇重 本間信濃守

泰直 本間内侍

泰時 本間四郎

有泰 本間孫四郎

泰高 本間彦四郎

助久 本間三郎

朝久 本間兵衛四郎 光久 本間三郎兵衛

朝嗣 本間小五郎 忠重 本間小四郎

信定 本間又七郎 時兼 本間左衛門五郎

宣兼 本間三郎 定泰 本間三郎

實宣 河原田大和守 宣家 河原田大和守

貞兼 河原田左馬允

蠣崎 清和源氏

新羅三郎義光九代 武田大膳次信宗長男

信武 武田陸奥守 從四位下 九外探題甲斐安藝守護職

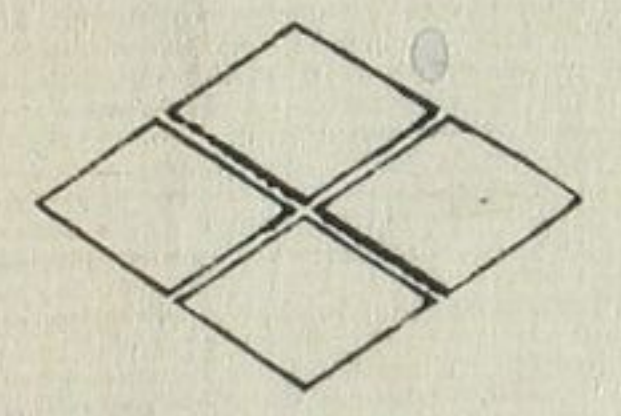
信成 武田刑部大輔 甲斐守護職

信在 安藝守護職 武田刑部大輔

信守 鹿苑院殿賜一字改滿信 武田安藝守

信繁 武田伊豆守 法泉院

國信 武田彦太郎 若列守護職



蠣崎宮内少輔光廣

松前蝦夷 ヲヨヘ 大澤 岸燒沢

レヒケ ヲシナイ シウフ ヲリカンナイ

シリウチ キコナイ ス、ホツケ モヘチ

一本木 ショヤク 大野 トチサキ

ノタイ クンヌイ モシヘツ ヲレヤミン

元光 武田大膳大夫 若狹武田祖

信廣 武田若狹守 渡于松前松嶋崎

妻嶋崎修理大夫女 松前蝦夷一圓討平七十八歳卒

光廣 嶋崎宮内少輔 五十九歳卒

義廣 嶋崎宮内少輔 五十九歳卒

季廣 嶋崎若狹守 七十三歳卒

慶廣 松前志摩守 天正十六年三月調 秀吉

舜廣 嶋崎宮内

政廣 嶋崎右衛門

シツカリ ウス エトモ タルヒ イラツ

ムカワ サル ヒホク シフチヤリ ウラカハ

ウンヘツ 等一圓領之

居城 松前 鎌倉より三百三里余 海陸共

家老 嶋崎修理大夫

嶋崎右衛門尉

花咲屋新之助

栗原信元著 應仁武鑑 初編 二冊

京都將軍家の御所領より吉良波川石橋 等の一族助波細川島山乃三管領山名佐木 赤松の四職國持御所申次等よりを記し

同 同 續篇 二冊

鎌倉令國十五列乃内。鎌倉御所の領 面上枚及び支族関東八大將評定礼等 乃所領役を記す

同 同 殘篇 二冊

鎌倉令國十五列乃内武田小笠原本曾 大井村上等乃丈名を首とし南部伊達 武藤の甲族を編み記す

同 同 餘篇 二冊

伊勢國司飛驒國司土佐一条家菊地島津 宗守都官西園寺種子島北条佐田新田大隅 千葉等乃家々を記し

栗原信光著

永々武鑑

大永元年より永禄十三年まで甲斐武田相模北条駿河今川雲羽尾子防列之内九列大友少貳等乃分限旗差物持城共沼革を記以

同

甲陽武鑑

武田家今國甲斐信濃飛騨美濃遠江駿河上野等散在の所領役一族諸侍給人乃分限旗差物幕以下小至るまで是を精しく記以

同

小田原武鑑

北條家今國相模伊豆武藏下総下野常陸安房上総等散在乃所領役一族諸侍給人乃分限旗差物幕以下小至るまで是を記以

同

勇士一言

古今名将勇士乃名言教訓たふへし實話及諸書より抜萃し之次第を正し出之を付考證を記す

弘化三丙午七月

栗原孫之丞著

心齋橋筋安堂寺町

大坂書林

秋田屋太右衛門

馬喰町二町目

出雲寺萬次郎

日本橋通一町目

須原屋茂兵衛

江戸書林

同 四町目

須原屋佐助

日本橋北十軒店

播磨屋勝五郎發兌

